

京都・大徳寺本山 開創700年の節目に合わせ
塔頭寺院を順次特別公開

2026年秋季 寺院特別公開情報解禁

【大徳寺 聚光院 公開日程】	2026年9月18日(金)～12月6日(日)
【大徳寺 興臨院 公開日程】	2026年9月5日(土)～9月27日(日)、10月3日(土)～12月15日(火)
【大徳寺 黄梅院 公開日程】	2026年10月9日(金)～12月6日(日)
【大徳寺 総見院 公開日程】	2026年10月10日(土)～11月30日(月)



大徳寺 聚光院 本堂 国宝障壁画『花鳥図』（複製）



大徳寺 総見院【重要文化財】木造織田信長公坐像

「京都の伝統文化と世界を繋げる」を企業理念に、非公開寺院の特別公開や上質な京都の文化体験を企画・運営する株式会社京都春秋（本社:京都市中京区、代表取締役:市川 豊）は、京都でも有数の規模を誇る禅宗寺院「大徳寺」塔頭寺院における、2026年秋季の特別公開情報を解禁いたします。本年は約3年半ぶりに公開される「聚光院」を含む4つの塔頭寺院が、2026年9月5日（土）より順次公開となります。

京都でも有数の規模を誇る禅宗寺院「大徳寺」は現在大河ドラマでも注目される、織田信長や豊臣秀吉など戦国大名ゆかりの地で、その戦国武将に仕えた茶聖 千利休や日本美術史上の重要人物の一人、狩野永徳を代表とする狩野派などが活躍した当時の文化の最先端であり、後世の日本文化に多大な影響を与えた場所です。

大徳寺の塔頭寺院であり、茶聖・千利休の菩提寺として知られる聚光院では、日本画の最高峰・狩野永徳とその父、松栄によるの国宝障壁画（複製）や現代日本画のトップランナー、千住博筆の『滝』、さらに表千家7代・如心斎が千利休150回忌に寄進したとされる茶室「閑隠席」（重文）などが公開されます。

通常是非公開の静謐な空間で、茶の湯の精神と現代美術が響き合う貴重な機会をお楽しみください。

毎年春と秋に特別公開される黄梅院、興臨院、総見院では、季節の移ろいととも、通常非公開である建造物や重要文化財をご拝観いただけます。なかでも総見院は、羽柴（後の豊臣）秀吉が織田信長の菩提を弔うために建立した寺院として知られており、信長公一族の墓碑や、木造織田信長公坐像（重文）の迫力を直近でご覧いただけます。

美しく色づく紅葉を眺めながら、当時の京都暮らしを今に伝える歴史的建造物をご覧いただき、歴史に想いを馳せる時間をお過ごしください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】

株式会社京都春秋 広報 八田（ハッタ）

Email : y-hatta@kyotoshunju.co.jp Mobile : 080 - 7633 - 8259

PR素材をご使用の際は必ず上記担当者に一報の上、各ページからダウンロードください。

【特別公開 運営に関するお問い合わせ】

株式会社 京都春秋

TEL : 075-231-7015 FAX : 075-231-6420 Email : info@kyotoshunju.com HP : <https://kyotoshunju.com>

大徳寺 聚光院

聚光院は永禄9年（1566）、戦国武将の三好義継が養父・長慶の菩提を弔うために創建。開祖である笑嶺宗訢が千利休参禅の師であったことから、利休は聚光院を自らの菩提寺としました。また利休の流れを汲む茶道三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）歴代の墓所でもあり茶道を嗜む者にとって特別な場所です。



方丈「百積の庭」

公開期間 : 2026年9月18日(金)～12月6日(日)

休止日 : 9月27日(日)、28日(月)、10月14日(水)、16日(金)～18日(日)、27日(火)、28日(水)、11月21日(土)、22日(日)、27日(金)～29日(日)

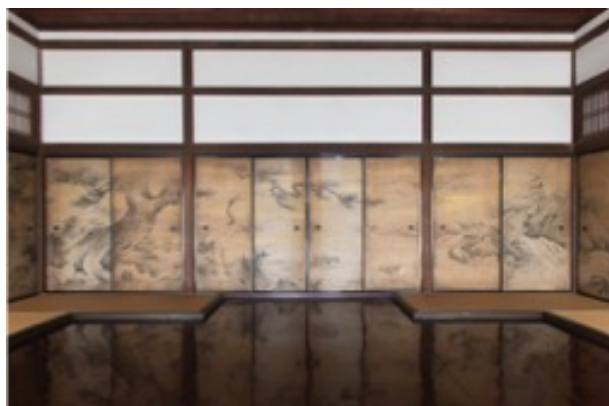
※休止日は法務により増える可能性有

拝観時間 : 9:30～15:30 (受付終了)

拝観料 : 大人1000円・小中高生500円
※未就学児は拝観不可

公開内容 : 【国宝・複製】狩野永徳・松栄筆 本堂障壁画
【重要文化財】本堂、茶室「閑隠席」「枳床席」
【名勝】方丈庭園「百積の庭」
書院 千住博筆襖絵『滝』

【国宝・複製】 狩野永徳・松栄筆 本堂障壁画

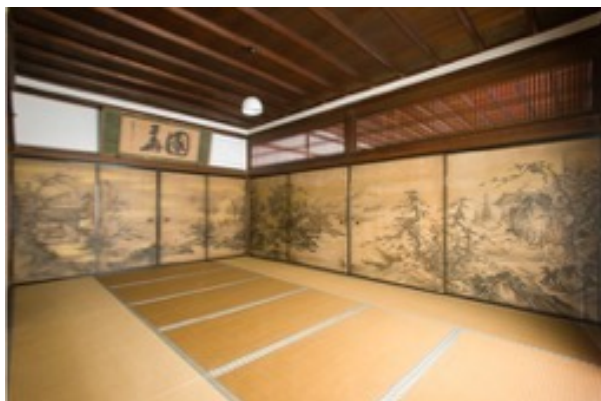


狩野永徳・松栄筆障壁画「花鳥図」(複製)

聚光院本堂の障壁画は桃山時代の天才絵師、狩野永徳（狩野派4代目）とその父、松栄（狩野派3代目）によって描かれました。特に永徳は当時24歳と若年ながら本堂の中心的機能を持つ室中を任せられ、傑作「花鳥図」を描き上げます。

天才・狩野永徳は現代でも日本画の重要人物の一人として挙げられますが、永徳が手掛けた安土城、聚楽第、大阪城はいずれも兵火・破却に遭い現存する作品は少なく、このスケールで残るものは聚光院の障壁画「花鳥図」のみです。1979年にパリのルーブル美術館から「モナリザ」が来日し展示されましたが、その答礼としてフランスで展示されたのが永徳の「花鳥図」でした。まさに日本美術を代表する傑作です。

狩野父子による障壁画46面は全て国宝に指定されています。（公開は複製。現在障壁画は京都国立博物館に保管。）聚光院本堂の空間のために計算され描かれた障壁画であるからこそ、躍動感が伝わります。



狩野永徳筆「琴棋書画図」全景(複製)

【重要文化財】 茶道三千家の関わりを持つ「閑隠席」「枡床席」の二つのお茶室



閑隠席



枡床席

聚光院と茶道三千家の関わりを最も如実に伝えるのが、共に重要文化財である「閑隠席」と「枡床席」の二つのお茶室です。閑隠席は千利休150回忌の際に表千家7代如心斎の寄進によって建てられたもので、ここで朝茶が開かれたことが記録にも残っています。利休の精神を汲み、明かりが極度に制限され簡素で緊張感のある設えが特徴。3畳と狭く、床柱は真っ直ぐな赤松皮付が使用されています。対して閑隠席と水屋を隔てて隣り合う枡床席は4畳半とやや広くその半畳は踏込み式の床の間となっています。床柱には曲線の赤松が使用され、天井もやや高く開放的で柔らかい空間に設計されています。

書院・千住博筆襖絵『滝』



平成25年（2013）に落慶した聚光院書院には、東京国際空港第2ターミナルやAPEC JAPAN 2010の首脳会議に作品が展示されるなど、世界的に活躍する日本画家・千住 博画伯の障壁画『滝』が納められています。

千住 博：日本生まれ。ニューヨーク在住の画家。崇高で巨大なスケールの滝や崖の作品で世界的に知られている。抽象表現主義に根ざしたミニマルな表現と日本古来の絵画技法を組み合わせた作品を制作している。2007年から2013年まで京都造形芸術大学学長を務め、現在は京都芸術大学教授、康耀堂美術館館長、ヴァン・クリーフ&アーベル芸術学校（レコール）マスターズコミッティー委員、公益財団法人徳川ミュージアム相談役などを務める。

(<https://www.hiroshisenju.com/ja>より引用)

大徳寺 黄梅院



方丈庭園「破頭庭」

織田信長が創建し、のちに豊臣秀吉が増築するなど戦国大名ゆかりの寺院。千利休が66歳の頃作庭したと言われる「直中庭」があることでも有名です。禅宗寺院において現存最古の庫裡（重要文化財）や、加藤清正が朝鮮出兵の際に持ち帰ったとされる釣鐘、また狩野永徳や長谷川等伯と並ぶ桃山時代の絵師、雲谷等顔の障壁画（重文・複製）などが公開されます。例年11月中旬からは境内の紅葉が美しく、多くの拝観者が訪れます。

公開期間 : 2026年10月9日(金)～12月6日(日)
休止日 : 10月10日(土)・11日(日)・28日(水)
※休止日は法務により増える可能性有
拝観時間 : 10:00～15:45(受付終了)
拝観料 : 大人1000円・中高生500円
小学生以下無料(保護者同伴)

公開内容 : 千利休作庭「直中庭」
武野紹鷗好み茶室「昨夢軒」
方丈庭園「破頭庭」
【重文・複製】雲谷等顔筆 本堂障壁画
【重文】庫裡



【重要文化財】

日本最古の庫裡（くり）

寺院の台所で僧侶の居住空間だった場所。日本に現存する禅宗寺院の庫裡としては最古のもの。



直中庭

千利休66歳の時に作庭されたと伝わる。秀吉公の希望により軍旗瓢箪を象った空池を手前にし、加藤清正公伝承の朝鮮灯籠を配した苔一面の枯山水庭園。苔と紅葉のコントラストが美しいスポット。

【重要文化財】

雲谷等顔筆 本堂障壁画（複製）

桃山四大巨匠の一人で、毛利家の御用絵師として雲谷派を築いた、雲谷等顔筆障壁画。桃山時代を代表する画僧雪舟の水墨画を手本とし、大胆な構図の水墨画を多く残した。（黄梅院のものは現在、複製です。）



大徳寺 興臨院



方丈庭園

室町期の建築様式の特徴を見せる本堂（重要文化財）や唐門を持つ大徳寺興臨院。能登の畠山家が創建しその後、豊臣政権の五大老を務めた前田利家が本堂屋根を修復、また菩提寺とするなど前田家とも非常に縁の深い寺院です。優美で安定感のある姿が静寂と落ち着きを感じさせる本堂や、「昭和の小堀遠州」とも言われた作庭家中根金作が復元した方丈庭園を持ちます。

- 公開期間 : 2026年9月5日(土)～9月27日(日)
10月3日(土)～12月15日(火)
- 休止日 : 9月23日(水祝)
※休止日は法務により増える可能性有
- 拝観時間 : 10:00～16:30(受付終了)
※12月1日(火)以降は16:00受付終了
- 拝観料 : 大人800円・中高生400円・小学生300円(保護者同伴)
- 公開内容 : 【重文】表門【重文】本堂
方丈庭園、茶室「涵虚亭」(かんきょてい)



方丈庭園

白砂に石組みを配して理想の蓬莱世界を表す。本堂の解体修理時に、資料をもとに足立美術館の作庭者でもある中根金作氏が復元。



【重要文化財】唐門

唐破風、檜皮葺で、室町時代の建築の特徴を表す。波型の連子窓、客待の花頭窓などは禅宗の建築様式のひとつ。

大徳寺 総見院



【重要文化財】木造織田信長公坐像

羽柴(後の豊臣)秀吉が、本能寺の変に倒れた織田信長の追善菩提のために建立した大徳寺総見院。木造織田信長公坐像(重要文化財)はその葬儀に際して造られました。その大きさは高さ三尺八寸(約115cm)の等身大で、慶派の仏師、康清によって作られました。らんと輝くその眼光は信長の面影を良く伝えます。信長亡き後の政権争いの中、秀吉がその主導権を握るため建立した歴史的背景のある寺院が公開します。

- 公開期間 : 2026年10月10日(土)～11月30日(月)
- 休止日 : 11月21日(土)・22日(日)
※休止日は法務により増える可能性有
- 拝観時間 : 10:00～16:00(受付終了)
※11月1日(日)は11:30受付開始
- 拝観料 : 大人800円・中高生400円・小学生以下無料(保護者同伴)
- 公開内容 : 本堂
【重文】木造織田信長公坐像
信長公一族の墓碑
お茶室



信長公一族の墓碑

信長公をはじめ、徳姫(信長の息女)、濃姫(正室)、おなべの方(側室)など、一族7基の五輪石や墓碑が並ぶ。



茶室

3つの茶室が並ぶ。総見院と茶の湯は関わりが深く、総見院方丈に秀吉が大徳寺大茶会では茶席を設けたと記録が残る。